上田城「再生」

旧市民会館解体から武者溜り復元へ





武者溜りの復元整備が始まります

上田城跡公園の旧市民会館や隣接する駐車場がある場所は、江戸時代には城を守るための兵を駐留させる「武者溜り」と呼ばれる場所でした。

その後、明治時代に上田城は解体され、武者溜りには上田市公会堂や市民会館などが建設され、現在に至っています。

市では、明治時代以降の歴史を尊重しながら、上田城を江戸時代の姿に近づけるため、旧市民会館の解体など、武者溜りの復元整備に向けた取組を進めています。

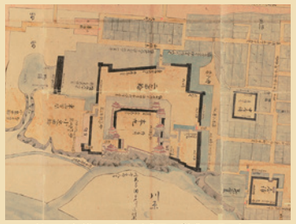
そこで今回は、市民の皆さまにとって数多くの思い出の場所となった旧市民会館の見どころを紹介しながら、今後復元整備が進む上田城の魅力を、城郭考古学者・千田嘉博さんのコメントを交えて解説します。

旧市民会館、そして上田城の「ココがすごい！」＝「ココすご！」なポイントをお楽しみください。

問 櫓復元推進室 ☎23・5403
上田城跡整備室 ☎23・5416
生涯学習・文化財課 ☎23・6362

武者溜り（旧市民会館）の主な歴史と今後の予定

1628頃 江戸時代 武者溜りが整備される


仙石時代　上田城及び城下町之図
（上田市立博物館所蔵）

1923 明治時代 上田城が破城される

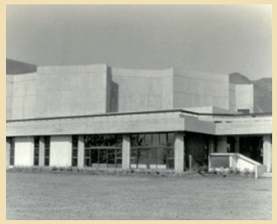
大正12年 武者溜りがあった場所に上田市公会堂が建設される


昭和初期の上田市公会堂

1960 昭和35年 上田市公会堂解体

37年 市民会館建設工事着工

38年 市民会館竣工（10月）・開館（11月）



2014 平成26年 市民会館閉館

28年 信州上田真田丸大河ドラマ館として開館

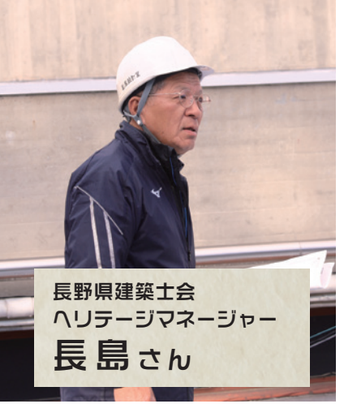


2025～ 29年 ・大河ドラマ館閉館
・特別企画展「400年の時を経て甦る上田城」開催

令和7年以降 ・旧市民会館解体
・武者溜り整備工事

※今後の予定は、変更となる場合があります

江戸時代の上田城の姿へ



旧市民会館のココがすごい！

3つのPointを紹介します

旧市民会館の建物としての価値を記録として後世に残すため、長野県建築士会ヘリテージマネージャー※の皆さまご協力のもと、調査を実施しました。また、昨年11月には見学会を開催し、多くの方にご参加いただきました。その内容の一部をご紹介します。 ※歴史的建造物の保全活用に携わる専門家

行チャン 上田市行政チャンネル

▲解説の内容は動画でご覧いただけます



上田城跡との調和

櫓のある本丸方面へ視線を誘導するため、3つの工夫がされています。

①タワー部分の外壁を傾けて圧迫感を軽減している。

②軒などを水平で直線的に設置している。

③建物の高さを抑えるため、半地下構造としている。



客席空間の一体感を目指したホール

一般的にホールは扇形や四角形ですが、あえて円形としています。

2階席を設けないことで、客席空間の一体感と優しさを演出しています。



交差した梁（はり）

円形のホールを支えるため、梁※を45°で斜めに交差させています。

ホール以外の梁も同様に交差させており、旧市民会館の特徴的なデザインとなっています。

※屋根などを支える、建物の横方向の骨組み

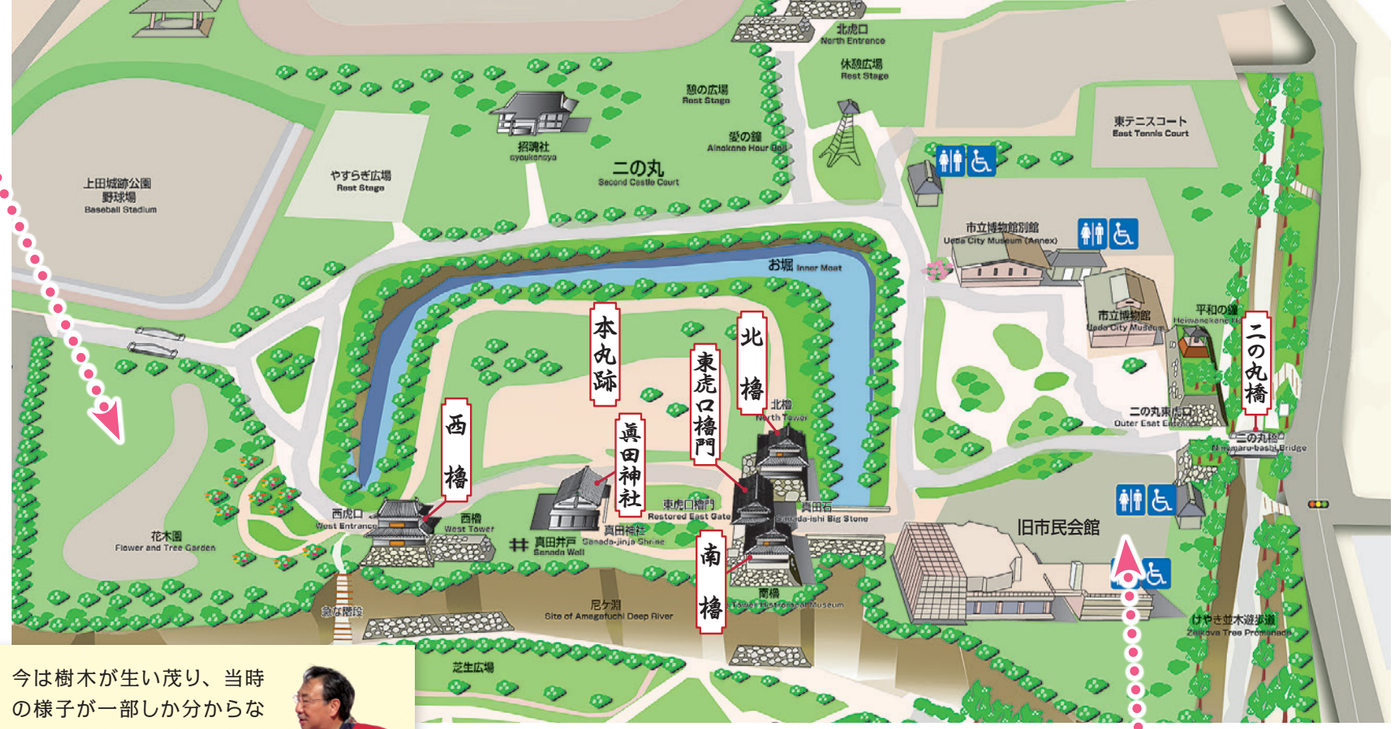
旧市民会館はデザイン性や機能性に優れた建築ですが、設備の老朽化などにより維持管理が困難であることや、武者溜り復元整備によって上田城の価値をより高めるため、今後解体します。しかし、後世にもこの建物の価値を伝えていくため、調査成果の公開などを進めていきます。

旧市民会館 DATA

- 建築年：1963年（昭和38年）
- 構造：鉄筋コンクリート造 地下1階・地上2階建て
- 建築延面積：323万1,386㎡（979.2坪）
- 収容人数：約2,000人
- 建築費：1億5,300万円（建築当時の金額）
- 設計：石本建築事務所
  ※旧市役所本庁舎、市立図書館も同事務所の設計

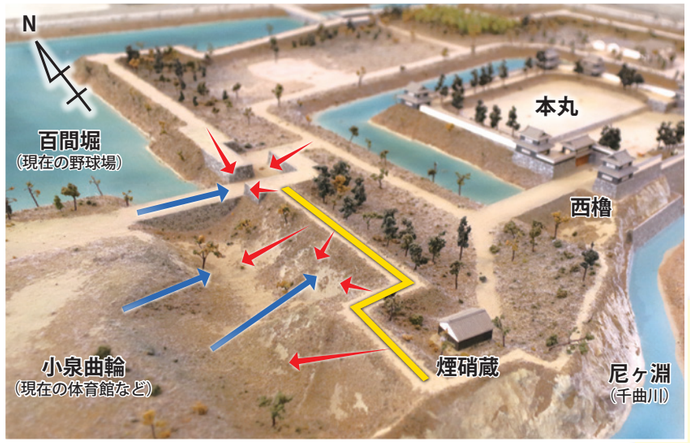
千田嘉博さんがおススメする 上田城のココがすごい！

11月2日～3日に城郭考古学者の千田嘉博さんをお迎えしてトークショーを開催し、市が復元整備を目指す武者溜りをはじめとした「上田城のココがすごい！」を楽しく解説していただきました。



ココすご！【西の守り】二の丸 土塁と堀の跡

花木園を抜けた先には、知る人ぞ知る高い丘があります。
この丘は「土塁跡」で、その周りには堀跡が見られます（下図）。この高い土塁と深い堀の跡は⌐型をしていて、敵を縦と横から攻撃できる構造になっており、西側の鉄壁の守りを体感できる場所です。



→敵の侵攻経路　→守兵の攻撃方向



今は樹木が生い茂り、当時の様子が一部しか分からないのが残念。景観の確保が今後の課題ですね。

千田さんが語る!! 上田城「再発見」

上田城の礎は徳川の力を借りて作られた!?

上田城は徳川軍を二度に渡って撃破したことで有名ですが、実は真田氏が独力で作ったのではなく、徳川家康が徳川領の境目を守るため造られた城なのです。

関ケ原の戦い後に上田城は破城されますが、幕府の許可を得て仙石氏の手で復興されます。

復興に当たり、「征夷大将軍の家康公が作った城を手直しして復興する」と言ったら、仙石氏は幕府に怒られるため、大きく形を変えるとは考えにくいですよね。

このため、仙石氏が復興し、松平氏に受け継がれ現在にいたる上田城の基本的な形は、真田氏が築城した当時の姿に近いものであると考えられます。

ますます魅力的になっていく上田城に期待していきたい

令和7年度からは、上田城の特徴のひとつである武者溜りの復元に向けて、旧市民会館の解体工事が始まります。

石垣や堀を巧みに使った上田城東側の守備の構えを、体感して欲しい。そして、念願の櫓・櫓門の復元も、ぜひ実現して欲しいと思います。上田城がもっと魅力的になるように、みんなで上田城を愛していきましょう！



行チャン 上田市行政チャンネル

▲トークショーは動画でご覧いただけます

◀上田城跡復元整備についてSNSで情報発信中

◀上田城跡に関するアンケート調査実施中

上田城跡整備に関する市民説明会を開催

上田城跡の整備がどのように進むかご説明します。ぜひご参加ください！

- 期日　3月15日(土)
- 時間　10:00～11:30
- 場所　中央公民館３階 大ホール
- 内容　①史跡上田城跡保存活用計画について
　　②旧市民会館解体工事について

ココすご！【東の守り】武者溜り周辺

城を守る兵が駐留する武者溜りは、本丸の土橋前にある広場空間とセットで考えると、その堅い守備の構造がわかります（下図）。
武者溜りを避けるように本丸堀近くまで侵攻してきた敵は、櫓からの強烈な攻撃を受けます。
さらに、本丸の目の前まで敵が侵攻してきても、今度は敵の背後にあたる武者溜りから多くの兵が出てきて敵を挟み撃ちできる、非常に良い組み合わせで、他にはあまり類がないお城の構えです。



→敵の侵攻経路　→守兵の攻撃方向



城郭考古学者
千田嘉博さん

名古屋市立大学教授、奈良大学特別教授、史跡上田城跡整備専門家会議委員。
日本と世界の城から歴史を考え、日本各地で城の調査や整備の委員を務める。
NHK大河ドラマ「真田丸」では、真田丸城郭考証を務めた。